

作家たちが惹かれた芦屋 報告書

担当 4 班

関西屈指の高級住宅地と言われる芦屋。山と海と川に恵まれ古い歴史のある町。その芦屋に惹かれた作家たちが芦屋をテーマにした作品を数多く残しました。その足跡を訪ね、作品の舞台となった背景や場所等を歩きました。

【実施日時】2024 年 10 月 18 日（金） 10 時

【参加者】58 名 + 1 名（体験参加）

【行程】どんよりとした薄曇りの中、JR 芦屋駅を出発して東に向かい阿保親王塚古墳に到着（阿保親王は在原業平の父として知られている）、その後北に向かい急坂を必死で登り芦屋神社に着きました（祭神である天穂日命は縁結びの神として崇敬をあつめている）全体記念撮影、次にヨドコウ迎賓館（旧山邑邸）に向かったが休館のため外観を眺めるに留め、芦屋川河川敷を南下し芦屋川河畔で昼食・班長会議（12 時～12 時 40 分）その後業平橋・業平歌碑を經由して鶴塚橋（鶴伝説を拝聴）、更に南下し芦屋川河口付近で東に進行、谷崎潤一郎記念館を見学 14 時 30 分仮解散。

【感想】普段散策に来る事の無い芦屋の高級住宅街を楽しみにしてました。今日特にへえ-つとびびっくりしたのが東海道線の天井橋。芦屋川の下を電車が通ってる事、どんな工事をしたのか考えさせられました。

芦屋神社に行くまでに、大きなお屋敷のある上り坂歩くのは大変でした。谷崎潤一郎記念館ではゆったりと見て回ることができました。途中鶴のお話もおもしろく拝聴しました。



阿保親王塚古墳



芦屋神社



芦屋河畔



谷崎潤一郎記念館